

ANNUAL



U A L

R E V

I E W



2022年度 年次報告書

2022年1月1日～12月31日

一般社団法人

バードライフ・インターナショナル東京



CONTENTS

代表のメッセージ	2
環境保全活動	
絶滅危惧種の保護	3
渡り鳥の保護	4
森林と湿地の保全	5
海鳥・海洋の保全	7
生活向上への取組	9
プラスチック循環型社会への取組	10
チャリティーイベントの開催	11
絶滅危惧種調査・研究	12
広がる支援の輪	13
収支報告	14

代表のメッセージ

バードライフ・インターナショナル東京（以下、バードライフ東京）は、2002年4月に設立され、森林や海洋の保全、地域の人々の暮らしの改善、環境教育、地球温暖化の防止など、世界規模で多様な活動を推進しています。昨年はアジアを中心に、アフリカ、南アメリカなど8カ国で環境保全活動を実施しました。

2022年は、バードライフ・インターナショナルが100周年を迎えた記念すべき年となりました。119カ国からバードライフのパートナー団体が英国本部に集まり、熱い議論を戦わせ、次の100年に向けた環境保全のあり方を模索し、共有しました。

環境問題は深刻さを増し、私たちに残された時間は多くはありません。私達バードライフは、環境課題解決に向け、出来ることから一歩ずつ進んでまいります。



2023年1月
バードライフ・インターナショナル東京
代表

鈴江恵子

**バードライフ・インターナショナルは、
100周年を迎えました。**



9月13日から9月15日に渡り、100周年を記念する世界大会が開催され、世界119カ国から700名以上の方にご参加いただきました。

絶滅危惧種の保護



鳥類の約13%が絶滅の危機に瀕しています

環境配慮型の稲作とオオヅルの保護 —カンボジア

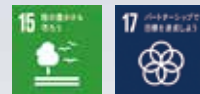
ツル科最大種のオオヅルは、IUCNレッドリストで危急種 (Vulnerable) に指定されています。オオヅルが飛来するカンボジア南部で、ツル米を生産し、農家の生計向上とツルへの理解を通じて生息環境を守る活動を進めています。

カンボジアでは、絶滅が危惧されるオオヅルの生息地が限られており、現在の生息地を安定的に保全することが課題です。バードライフ東京とNatureLife Cambodia(カンボジアのパートナー団体)は、2021年から経団連自然保護基金の支援を受け、協働で環境配慮型のツル米の生産とオオヅルの保護活動を実施しています。2022年にはツル米の新規協力農家の開拓や市場ニーズの高い米の試験栽培を進めました。



Migratory Birds Conservation

渡り鳥の保護



渡りのルートにある
生息地を守ります



©Tohki Inoue

北海道のフライウェイ・サイトの活動支援 —日本

北 海道に飛来する渡り性水鳥と生息地保全のため、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ参加地の活動を支援しています。

渡り性水鳥の越冬地、中継地、繁殖地として重要なフライウェイ・サイトが、北海道には9カ所あります。2022年はパンフィック・センチュリー・プレミアム・ディベロップメントの支援を受け、クッチャロ湖と釧路湿原がタイアップした湿地性小鳥類及びオオワシ・オジロワシの捕獲調査勉強会の開催や子供たちの交流促進と、春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターにおけるビジターの受入環境の整備をしました。これにより、北海道内のフライウェイ・サイト間の連携や、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの重要性の普及を担うビジターセンターの活性化が期待されます。

渡り性水鳥とその生息地の保護 —日本

渡 り性水鳥の重要生息地ネットワークの保全と適正な管理を進めるため、専門家や自治体及び地域のNGOと協力した取組を進めています。

渡り鳥を守るためには、繁殖地、渡りの途中の休息場所（中継地）、越冬地と、渡りの経路全体で守る必要があります。日本も参加している東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ（EAAFP）のもと、渡り性水鳥やその生息地の保全・管理が進められています。2022年は環境省からの請負のもと、国内での活動推進や連携強化を目的に、国内連絡会やモニタリング検討会、渡り性水鳥フライウェイ全国大会を開催しました。

Forest and Wetland Conservation

森林と湿地の保全



世界の鳥類の3分の2は
森林や湿地に生息しています



洲崎湿地 ©東松島市

震災被災湿地の整備 —日本

宮 城県東松島市野蒜地区に位置する洲崎湿地は、2011年の東日本大震災による地震と津波により大きな浸水被害を受けました。この津波によって消失した自然環境を再生し、渡り鳥の重要な生息地として整備することを目指しています。

洲崎湿地は津波の浸水被害を受けた一方で、震災以降ガンやカモ、ハクチョウ類など多くの渡り鳥が見られるようになりました。このような渡り鳥が安心して飛来できる環境づくりを目的に、本年は、株式会社アルテ サロン ホールディングス、株式会社ケンジからの支援金を活用し、洲崎湿地の一区画で人工干潟の掘削・整備工事を実施しました。来年は近接地の別区画の人工干潟の整備工事と周辺の植栽を計画しています。



ナイフなどでゴムの木の表面を削り、天然ゴムの原料となる白い樹液を採取する

テクノロジーを活用した森林保全 —インドネシア

ス マトラ島の熱帯雨林「ハラパンの森」で、テクノロジーを活用した効率的な森林保全活動を促進しています。

同地域では、パームオイルやゴム生産のための農園開発により、大規模な森林破壊が進んでいます。そのため、ブルーン・インドネシア（インドネシアのパートナー団体）は、約10万haの森林を守る「ハラパンの森」プロジェクトを立ち上げています。2022年は富士通株式会社の支援を受け、森林のパトロールやモニタリングへのデジタル技術の活用といったICT技術を用いた持続可能な森林保全促進を目指しました。

そこで現地スタッフの生物多様性に関する知識や調査技術向上のための研修や、情報統合に向けた各チームの管理者達を対象としたワークショップの開催、スタッフのモチベーション向上のための奨励制度の構築を実施しています。これにより、各チームの明確な目標設定や、持続可能な森林保全に向けた情報管理の統合に向けた検討が促進されました。

森林資源を活用した地球温暖化の緩和 —インドネシア

ト ヨタ環境活動助成プログラムの支援を受け、ブルーン・インドネシアと協働で、ハラパンの地元の住民の生計向上と森林保全に寄与する活動を実施しました。

違法な伐採や焼き払いによって森林が失われたハラパンの森を保全するために、植林とともに天然ゴムの栽培とハチミツの生産を行う活動を実施しました。契約農家への研修の結果、天然ゴムの品質が改善され、高価格での販売により農家の収入を増加させることができました。一方ハチミツは森林火災によるスモッグの発生によりミツバチの営巣が困難になってしまいましたが、研修により農家の営巣木管理と収穫知識が向上しました。また、PRISMによる事業評価も実施しました。

海鳥・海洋の保全



鳥類への影響をはかるための
調査を行っています



©Tohki Inoue

油流出事故の影響評価のための水鳥モニタリング —モーリシャス

2 020年7月にモーリシャス沖で発生したWAKASHIO座礁事故による油流出が、沿岸域に生息する鳥類に及ぼす中・長期的な影響を評価するための調査を実施しています。

バードライフ東京は、Mauritian Wildlife Foundation(モーリシャスのパートナー団体)と協力し、油流出が鳥類をはじめとする生態系に及ぼす影響を科学的に評価することを目的に、2020年より水鳥のモニタリング調査を開始しました。2022年からは、公益信託商船三井モーリシャス自然環境回復保全・国際協力基金による支援のもと、シギ・チドリ類や海鳥のモニタリング調査を実施するとともに、継続的な調査体制を構築するための能力向上研修も実施しました。

海鳥と漁業の共存に向けた 保全活動に取り組んでいます



©Stephanie Prince

遠洋マグロはえ縄漁における海鳥混獲の削減 —日本

は え縄漁による海鳥混獲の削減を目指し、ステークホルダーとの意見交換と一般市民向けの普及啓発活動を行いました。国際的なマグロ漁管理組織の会合や、持続可能な漁業に関する話し合いにも参加しました。

海鳥が直面する深刻な問題の一つが漁業による混獲(偶発的に漁具にかかること)です。マグロはえ縄漁では、絶滅危惧種を含む多くのアホウドリ類などが犠牲になっています。2022年は、デビッド&ルシル・バックカード財団の支援のもと、漁業関係者、サプライチェーン、行政、研究者らとの意見交換や、ステークホルダー対象の講演を行いました。SNS「南半球アホウドリ物語」を通して、一般市民向けの普及啓発も行いました。

海鳥と刺し網漁の共存を目指す取組 —日本

北 海道北西部における刺し網漁による海鳥混獲の現状把握に向けて、漁業者や北海道大学の研究者らと協働で洋上におけるデータ収集をしました。葛西臨海水族園及び研究者と協働で、混獲回避策の実験も行いました。

刺し網漁における混獲で、世界中で毎年推定40万羽の海鳥が命を落としています。2022年は、東京動物園協会、乾太助記念動物科学研究助成基金、キングフィッシャー財団、デビッド&ルシル・バックカード財団の支援のもと、北海道羽幌町周辺の漁業者や研究者らと協働で、混獲現状把握のためデータ収集を継続しました。また、日本動物園水族館協会の支援を受け、潜水性海鳥を飼育している葛西臨海水族園において、混獲回避策の検証実験を行いました。

生活向上への取組

人を育て、暮らしを支えて
環境を守っています



持続可能な森林資源管理と生計向上支援 —インドネシア

スラウェシ島ゴロンタロ州ポフワト県の6村で、持続可能な森林資源管理と生計向上に向けた活動を実施しています。

この地域では、農地拡大のための森林伐採や、持続不可能な森林資源利用と農業が行われています。本プロジェクトは、JICA(国際協力機構)草の根技術協力に採択され、2021年11月よりブルーン・インドネシアと共同で実施しています。2022年は、各村から選ばれた12名の指導員候補者に対し、育成研修を実施しました。これにより、指導員候補者達による各村の農家に対する森林保全、持続可能な農業に関する研修の実施が可能になりました。ウェブページ(<https://tokyo.birdlife.org/kusanone>)で、活動を詳しく紹介しています。

プラスチック循環型社会への取組



環境保全活動を通して社会活動の解決を図っています



2020年に実施された清掃活動の様子

プラスチック循環型リサイクルプログラム

—日本

清 掃活動で回収した廃プラスチックをリサイクルしたごみ袋の製作を目指しています。

ダウ・ケミカル日本株式会社 の支援を受けて、清掃活動で回収したプラスチックをリサイクルし、次の清掃活動で活用できるごみ袋を製作するプラスチック循環型プロジェクトを実施しています。本年度は、前年度の活動の補完として、鳥をマスコットとするJリーグクラブから構成される「Jリーグ鳥の会」の希望するクラブに、昨年度製作したリサイクルごみ袋を配布し、プラスチック循環を強化しました。来年は、いくつかの地域で清掃活動を実施し、また新たなリサイクルごみ袋を製作する予定です。

Yahoo! ネット募金



Yahoo! ネット募金では、バードライフ東京の運営サポートの他に、ヘラシギ、ケープペンギン、オオヅル、ブラジルの野生の鳥たちやインドネシアの森を守る活動の5つのプロジェクトページを開設し、ご支援をいただいています。



©Brian Mckay



ガラ・ディナー

チャリティーイベントの開催

環境への理解を深めながら、
環境保全に貢献する機会を提供しています



バードライフ東京は自然保護活動支援のため、毎年2回、東京と大阪でガラ・ディナーを主催しています。全国の企業や個人の方々からご協賛をいただき、チャリティーオークションを通じて活動資金としています。

2022年は3年ぶりに大阪でスプリング・ガラを開催し、1,500万円の収益金を集めることができました。また東京ガラ・ディナーでは、バードライフ設立100周年を記念した特別なお料理やエンターテインメントをお客様にお楽しみいただき、4,100万円もの収益金を集めることができました。収益金は、BirdLife International Japan Fund for Science基金や、レッドリストへの支援などバードライフの科学調査に活用させていただきました。

Live Auction



資金作りのためのライブオークション

Princess Takamado



名誉総裁 高円宮妃久子殿下による抽選

BirdLife International Japan Fund for Science 基金

バードライフの科学に基づいた
調査・研究を支援していきます



BirdLife International Japan Fund for Science 基金は、高円宮妃久子殿下の名誉総裁ご就任15周年を記念し2019年に設立されました。

この基金によって、バードライフが世界中で行う鳥類の保護や自然環境保護の基礎となる調査研究活動が支えられています。これらの研究は、バードライフだけではなく、様々な国際機関や政府に基礎データとして提供されています。またIUCN(国際自然保護連合)レッドリストとして自然保護に役立てられています。

2022年は、東京と大阪で開催したガラ・ディナーや、インターネット・オークションの収益金の一部を充当しました。また、個人や団体、コーポレート・パートナーのショパールジャパン株式会社など企業からも多額のご寄付をいただきました。

Red Data Book



世界の絶滅危惧種を解説したRed Data Book

広がる支援の輪

理念や活動に共感する多くの方々から ご支援をいただきました

株式会社アルテ サロン ホールディングス 株式会社ケンジ

海外を含め300店舗以上の美容室を展開する株式会社アルテ サロン ホールディングス、関東を中心に120店舗以上の美容室を展開する株式会社ケンジより、店舗でのカラー施術の件数に応じたご寄付をいただきました。美容業界は大量の水を使用し、染料などに含まれる化学物質が水質汚染の原因となり得ることから、バードライフの環境保護活動に共感いただき、継続的なご支援をいただいています。ご支援は、東日本大震災で被害を受けた宮城県東松島での湿地復元に活用しています。

ソリマチグループ

1955年の創業以来、60年以上にわたって日本の会計をあらゆる形で支援してきたソリマチグループより、3年目となる社内の募金活動によるご寄付をいただきました。同グループのイメージキャラクターであるペンギン保護のため、今後も継続的にバードライフのペンギン保護活動にご寄付いただく予定です。

株式会社フェリシモ

自社企画商品を中心に、ファッションや生活雑貨など幅広い商品を生活者に販売する株式会社フェリシモとのコラボレーションマスクをこれまでに3回販売しています。鳥たちがデザインされたマスクの販売価格のうち100円を、野鳥基金としてバードライフの環境保全活動にご寄付いただきました。

BLS (バードライフ・サポーターズ・クラブ)

有志の麻酔医の方々によって結成されたバードライフ・サポーターズ・クラブから、今年もご支援いただきました。東京で行われた会合でオークションを通じ、寄付金を集めていただきました。



LGTウェルスマネジメント信託株式会社

リヒテンシュタイン公爵家が所有する国際的プライベートバンキングおよびアセットマネジメントグループであるLGTの日本法人であるLGTウェルスマネジメント信託株式会社より、ご寄付をいただきました。同社はESGとサステナビリティを強く重視しており、バードライフの科学的な調査・研究活動を5年間ご支援いただけることになりました。



公益財団法人全日本弓道連盟

公益財団法人全日本弓道連盟より、ご寄付をいただきました。弓道の矢に鳥の羽根が使われていることから、鳥類の保護に関心を寄せていただき、バードライフの科学的な調査・研究活動を5年間ご支援いただけることになりました。

法人賛助会員・個人会員

バードライフ東京には、企業や団体による法人賛助会員制度や、個人で活動を支援していただく制度があります。その他にも、絶滅危惧種の保護活動に里親として関わっていただくレア・バード・クラブ会員制度があります(50音順・敬称略)。

法人賛助会員

2022年の法人賛助会員は、以下の通りです。

- ・IMHホールディングス株式会社
- ・株式会社アルテ サロン ホールディングス
- ・アルファー食品株式会社
- ・出雲大社
- ・出雲大社文化事業団
- ・高麗若光の会
- ・伏見稲荷大社
- ・高麗神社
- ・北海道神宮
- ・寒川神社
- ・真清田神社

個人会員 (Friends of BirdLife)

個人会員制度では5,000円を1口(1年間)として寄付を募っています。個人会員の方からのご支援はプロジェクト活動費や団体の運営のために活用させていただきます。振込の他、カード決済による会員の自動継続が可能です。

その他のご支援

- ・Andreas Serenus Hoffman
- ・スフェラーパワー株式会社
- ・azbilみつばち倶楽部
- ・大本山總持寺
- ・Cliff Shaw
- ・富士通株式会社
- ・海外酒販株式会社
- ・株式会社ワンステップ

収支報告

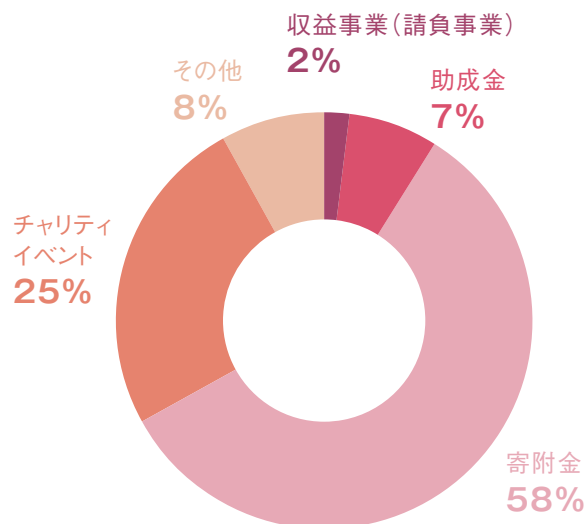
2022年12月末現在の収支報告は以下の通りです。

※2022年12月末日現在の見込(会計監査前)

Income

収入

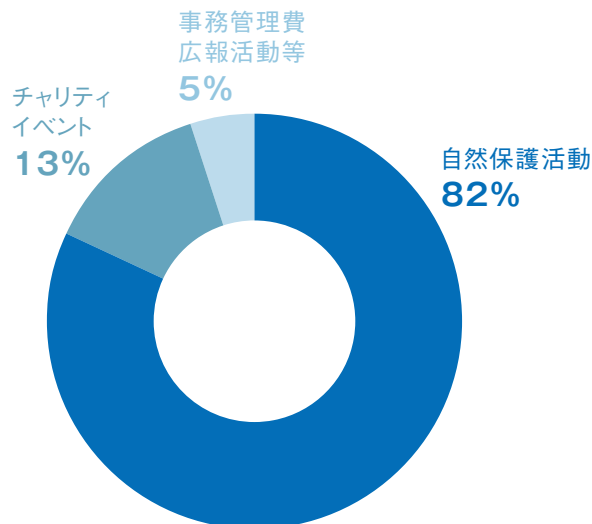
476,262,943円



Expenditure

支出

476,262,943円



Together we are BirdLife International Partnership for nature and people



一般社団法人

バードライフ・インターナショナル東京

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-1 ユニゾ蛸殻町北島ビル1階

TEL: 03-6206-2941 FAX: 03-6206-2942

<https://tokyo.birdlife.org>